

2015年工学部第2問



2 点Pは正三角形ABCの辺に沿って頂点を移動できる。このとき、次の操作を考える。

(操作) 2枚の硬貨を同時に投げる。表が2枚出れば、点Pは時計回りに隣の頂点に動く。表が1枚だけ出れば、点Pは反時計回りに隣の頂点に動く。表が出なければ、点Pは動かない。

この操作を続けて行うとき、次の問いに答えよ。ただし、点Pははじめに頂点Aにあるとする。

(1) 2回目の操作終了時に、点Pが頂点Aにある確率を求めよ。

(2) 4回目の操作終了時に、点Pが頂点Aにある確率を求めよ。

(1) 1回の操作で、時計回りに動く確率は、 $(\frac{1}{2})^2 = \frac{1}{4}$

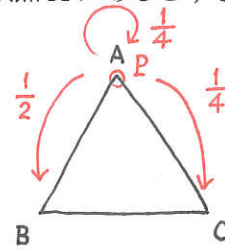
動かない確率は、 $(\frac{1}{2})^2 = \frac{1}{4}$

反時計回りに動く確率は、余事象より、 $1 - \frac{1}{4} - \frac{1}{4} = \frac{1}{2}$

2回目の操作終了時にAにあるのは、

$\curvearrowright \curvearrowleft, \curvearrowleft \curvearrowright, \text{止止}$ のいずれかであるから、

$$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{4} + \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} = \frac{5}{16}$$



(2) n 回目の操作終了時に A, B, C にある確率をそれぞれ P_n, Q_n, R_n とおくと、

$$\begin{cases} P_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{4}Q_n + \frac{1}{2}R_n \\ Q_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{1}{4}Q_n + \frac{1}{4}R_n \\ R_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{2}Q_n + \frac{1}{4}R_n \end{cases}$$

これをくり返し使って、

$$P_4 = \frac{1}{4}P_3 + \frac{1}{4}Q_3 + \frac{1}{2}R_3$$

$$= \frac{1}{4}(\frac{1}{4}P_2 + \frac{1}{4}Q_2 + \frac{1}{2}R_2) + \frac{1}{4}(\frac{1}{2}P_2 + \frac{1}{4}Q_2 + \frac{1}{4}R_2) + \frac{1}{2}(\frac{1}{4}P_2 + \frac{1}{2}Q_2 + \frac{1}{4}R_2)$$

$$= \frac{5}{16}P_2 + \frac{3}{8}Q_2 + \frac{5}{16}R_2$$

$$= \frac{5}{16}(\frac{1}{4}P_1 + \frac{1}{4}Q_1 + \frac{1}{2}R_1) + \frac{3}{8}(\frac{1}{2}P_1 + \frac{1}{4}Q_1 + \frac{1}{4}R_1) + \frac{5}{16}(\frac{1}{4}P_1 + \frac{1}{2}Q_1 + \frac{1}{4}R_1)$$

$$= \frac{11}{32}P_1 + \frac{21}{64}Q_1 + \frac{21}{64}R_1$$

$$P_1 = \frac{1}{4}, Q_1 = \frac{1}{2}, R_1 = \frac{1}{4} \text{ より } P_4 = \frac{85}{256}$$